



CONTENTS

- P2 ごあいさつ・2020年ハイライト
- P3 ORGAN事業構成マップ
- P4-7 [特集]長良川おんばくの10年間
- P8 ORGANロジックモデル
- P9 和傘CASA
- P10 美濃国戦国案内人育成研修と戦国ドラまちEXPOオンライン2020
- P11 ぎふ長良川鵜飼かわまちづくり計画
- P12 2020年度活動計算書
- P13 数字で見るORGAN
- P14 2021年度事業方針
- P15 ORGANの活動に参加するには

団体名 NPO法人 ORGAN
所在地 岐阜市湊町45
設立 平成23年2月17日
理事長 蒲 勇介
事業内容 「長良川おんばく」事務局、長良川デパートにおける小売事業、ORGANキモノレンタルサービス、オンパク手法による地域支援事業、長良川流域観光推進協議会各種業務、その他観光まちづくり支援事業
取引先 岐阜県、岐阜市、桑名市、(株)JT中部、(株)JT、名鉄観光サービス(株)、近畿日本ツーリスト(株)
TEL 058-269-3858
FAX 058-269-3857



ORGAN

ANNUAL REPORT

2020 NPO法人ORGAN 年次報告書

ごあいさつ

長良川とともに生きる未来を描き 行政と民間が手をとるしくみづくり

2020年は世界的に変化の一年となりました。新型コロナウイルス感染拡大に伴い、ORGANも小売部門の休業やイベントの中止・延期など計画通りにいかないことが続きました。その中であって、例えば「長良川おんぱく」は、夏にオンライン体験博(オンぱく)として実験の開催を行うなど、オンライン体験・ツアー・セミナーなどを繰り返し実施することで、コロナ禍のソフト事業のノウハウを獲得することができた1年となりました。

2020年度中には、ORGANの政策提言により3つの行政政策が進展しました。一つ目は岐阜市による長良川河畔の活用に向けた計画『ぎふ長良川鞆鯛かわまちづくり計画』が国土交通省のかわまちづくり支援制度に登録されたこと。

と。二つ目はふるさと納税を活用し非営利団体の活動に対する寄付を集められる仕組みとして岐阜市に提言し実現した『岐阜市ガバメントクラウドファンディング』です。当法人の事業も採択され、長良川流域文化に関する調査・冊子発行プロジェクト『長良川レッドデータブック』の制作を2021年度にかけて進行中です。三つ目は岐阜市と共に補助金申請に関わり、観光庁のコロナ対策補助金を獲得し実施した『ぎふ灯り物語』で、岐阜和傘のイルミネーションが話題となりました。今後も、新たな時代に必要な仕組み・枠組みを、セクターを超えて提言し、実現に繋げていけるよう邁進いたします。

NPO法人 ORGAN 理事長 蒲勇介

2020年度ハイライト

1 オンラインツアーの開催 長良川おんぱく&美濃国戦国ドラマちEXPO



2 岐阜市の ガバメントクラウドファンディングがスタート



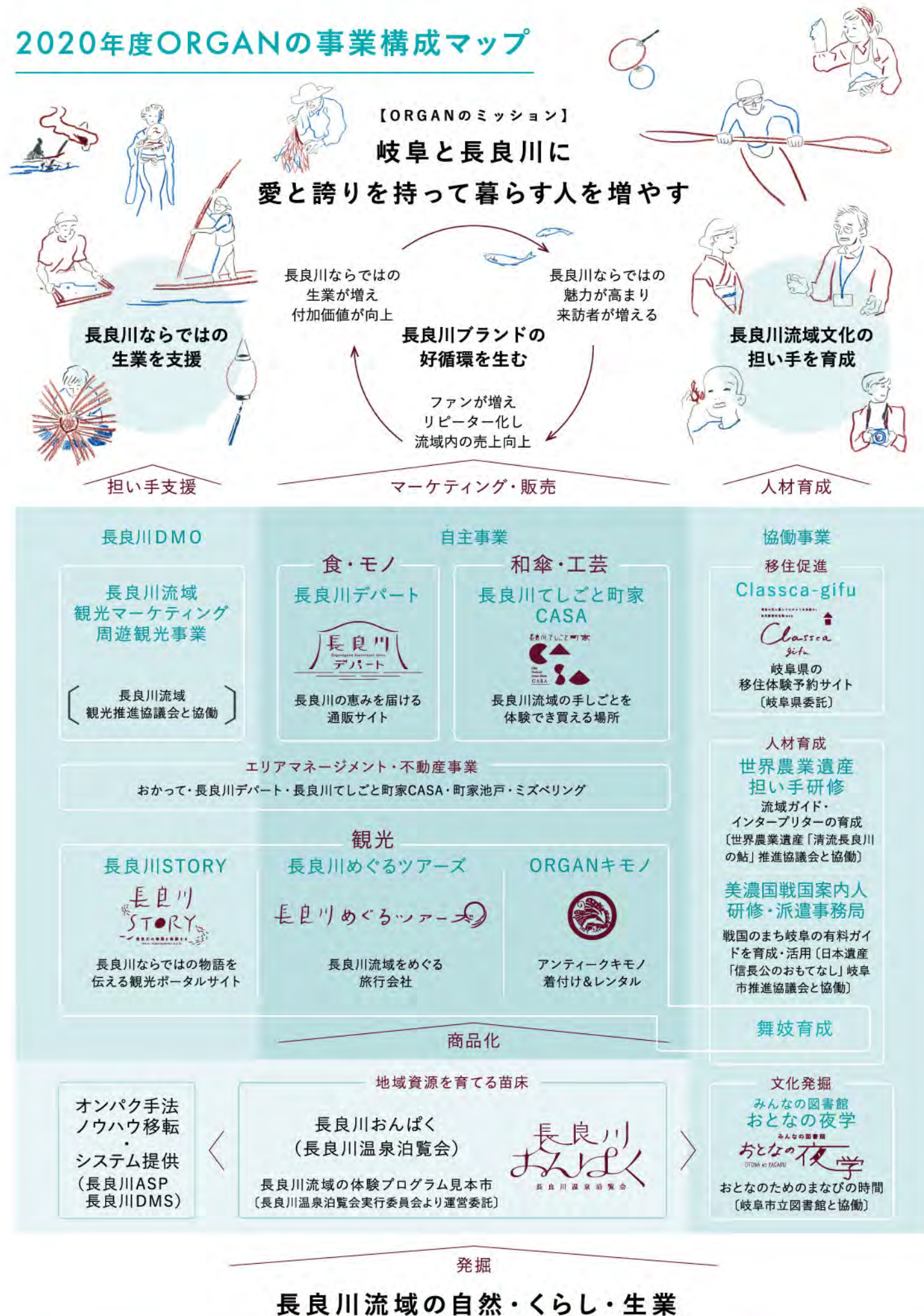
3 和傘イルミネーション 「ぎふあかり物語」開催



4 政策提言により かわまちづくり計画進行中



2020年度ORGANの事業構成マップ



ORGAN法人化当初からの事業

長良川おんぱくの10年間

ORGAN法人化とともにスタートをきった「長良川温泉泊覧会」(以下長良川おんぱく)。

もともと「オンパク」とは、別府ではじまった地域活性化の取り組みです。地域の隠れた魅力をブラッシュアップし、体験型プログラムをつくり、各プログラムパートナー(主催者)の皆さんとともに発信していくプラットフォームです。長良川おんぱくは2011年にスタートし2012年度よりORGANが実行委員会事務局を務める形で、長良川流域市町村を舞台に毎年秋に開催してきました。

初年度から、100の体験プログラムを実施、3000名以上の参加者に恵まれました。そして年を重ねるごとにパートナー数、プログラム数、参加数も増え、ORGANの代名詞となる事業へと成長していきました。

「長良川おんぱく」を開催したことで私たちと同じように、

長良川流域文化の継承に尽力する先達や仲間とも出会うことができました。川漁師、てしごとの職人、芸能に携わる方々、料理人、アーティスト、僧侶、地元企業のみならずなど、顔を思い浮かべると限りありません。個々に活動されていたみなさまが毎年「長良川おんぱく」の成功に向けてワンチームとなれたことが「長良川おんぱく」最大の功績だったと感じています。

長良川流域の様々な可能性を実験によって引き出し、実践につなげていく「長良川おんぱく」はその成果を充分に上げた確認し、10年をもって閉幕いたします。そして、その土壌を引き継ぎながら2021年からは、着地型ツアー事業「まいまい東海」の開催を行なっていきます。これまで10年間、本当にありがとうございました!



長良川おんぱくの10年

	<p>2011年度 100プログラム 3000人 初開催で 100プログラム実施!</p>			<p>おんぱく写真部の発足 写真家澤田尚正さんの 呼びかけで有志が集まり 「おんぱく写真部」が 発足しました。プログラム 撮影、レポート記事 作成、岐阜新聞連載記 事作成と多岐にわたる 業務を担い、毎年長良 川おんぱくを支えてく だしました。</p>
	<p>2012年度 120プログラム 2713人 おんぱく写真部発足!</p>			<p>2012年度 120プログラム 2713人 おんぱく写真部発足!</p>
	<p>2013年度 130プログラム 2208人 全国から集まる 「おんぱくサミット」 開催</p>			<p>2014年度 140プログラム 3615人 オープニングは 「長良川鮎祭り」で ギネス記録獲得!</p>
	<p>2015年度 180プログラム 4141人 最盛期2ヶ月で 500開催!</p>			<p>2016年度 150プログラム 4004人 長良川デパート 湊町店もオープン!</p>
	<p>2017年度 170プログラム 3675人 表紙に岐阜和傘 初登場!</p>			<p>2018年度 160プログラム 4684人 春、夏、秋の3回開催、 夏はキッズおんぱく</p>
	<p>2019年度 130プログラム 2378人 秋、冬の2回開催、 冬はのんべえ博覧会 (のんぱく)</p>			<p>2020年度 64プログラム 776人 夏、冬の2回開催、 夏はオンライン体験博 (オンぱく)</p>

長良川みちくさゼミ

岐阜市教育委員会主催の研修で、運営をORGANが担当した「長良川みちくさゼミ」。まちづくりの担い手としてチャレンジしてみたい!という新たなまちづくりの担い手を育成しました。長良川みちくさゼミから生まれたプログラムの一部をご紹介します。



おじいちゃんの瀬張漁とおばあちゃんの鮎ごはん(2015)

画家のとなりで描いて飾ってプチ展覧会(2017)

表情豊かな糸で作るあなただけの耳飾り(2019)

おんぱくから生まれた、多種多様な長良川流域の可能性



舞妓列車

川床栈敷

かわべの時間マルシェ

全国に広がる長良川おんぱく手法

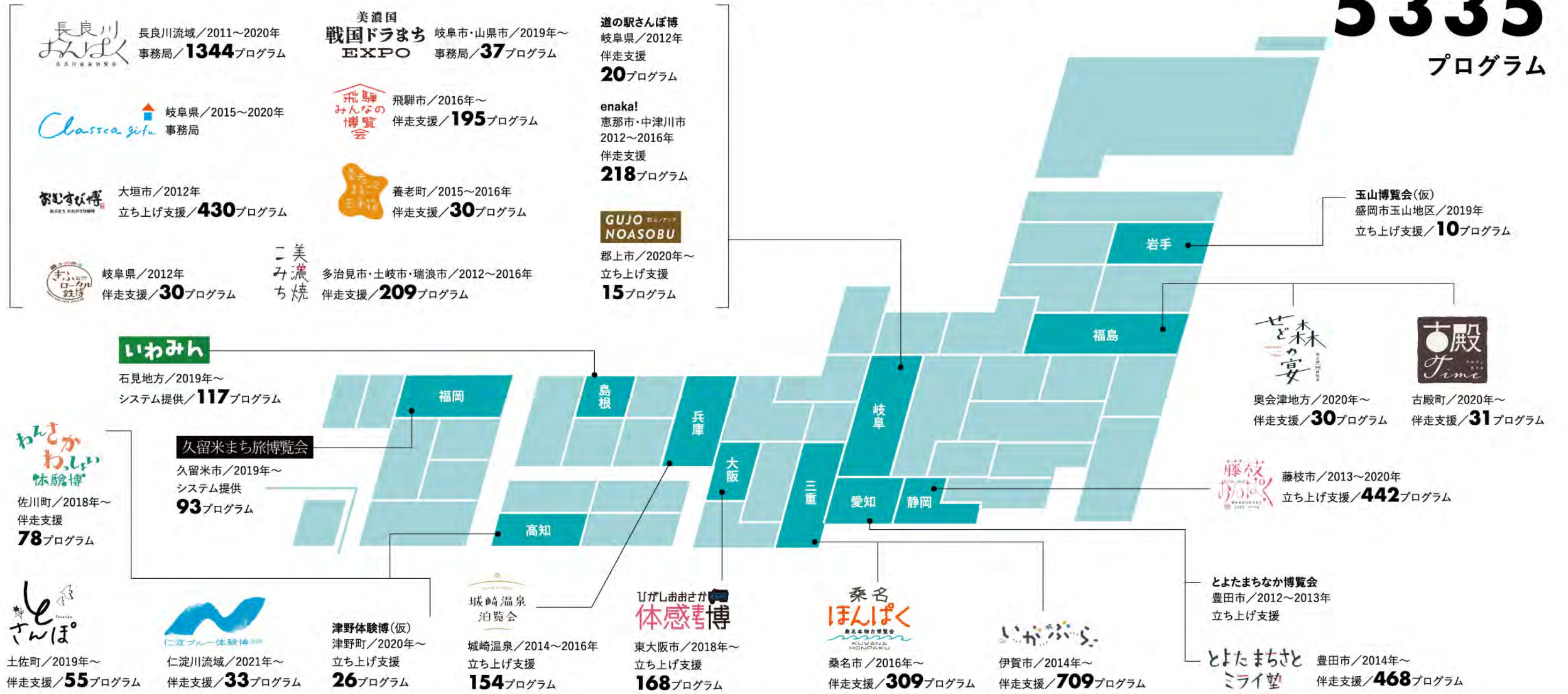
長良川おんぱくで培われたノウハウや予約システムなど、全国で同じ課題に向き合う地域で活用いただいています。

その数27地域5000プログラム以上！
今後も地域の可能性を引き出す手法として、
全国に支援メニューを提供していきます。

開催支援した体験プログラム総数

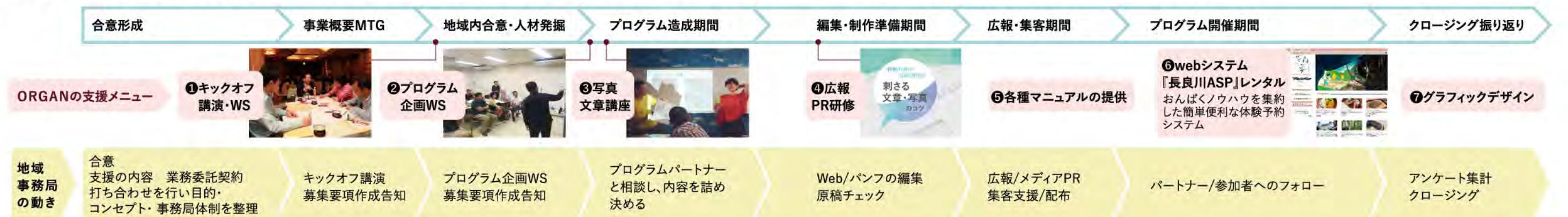
5335

プログラム



長良川おんぱくのノウハウをもとにした、各地でのおんぱく開催

までの支援の流れ

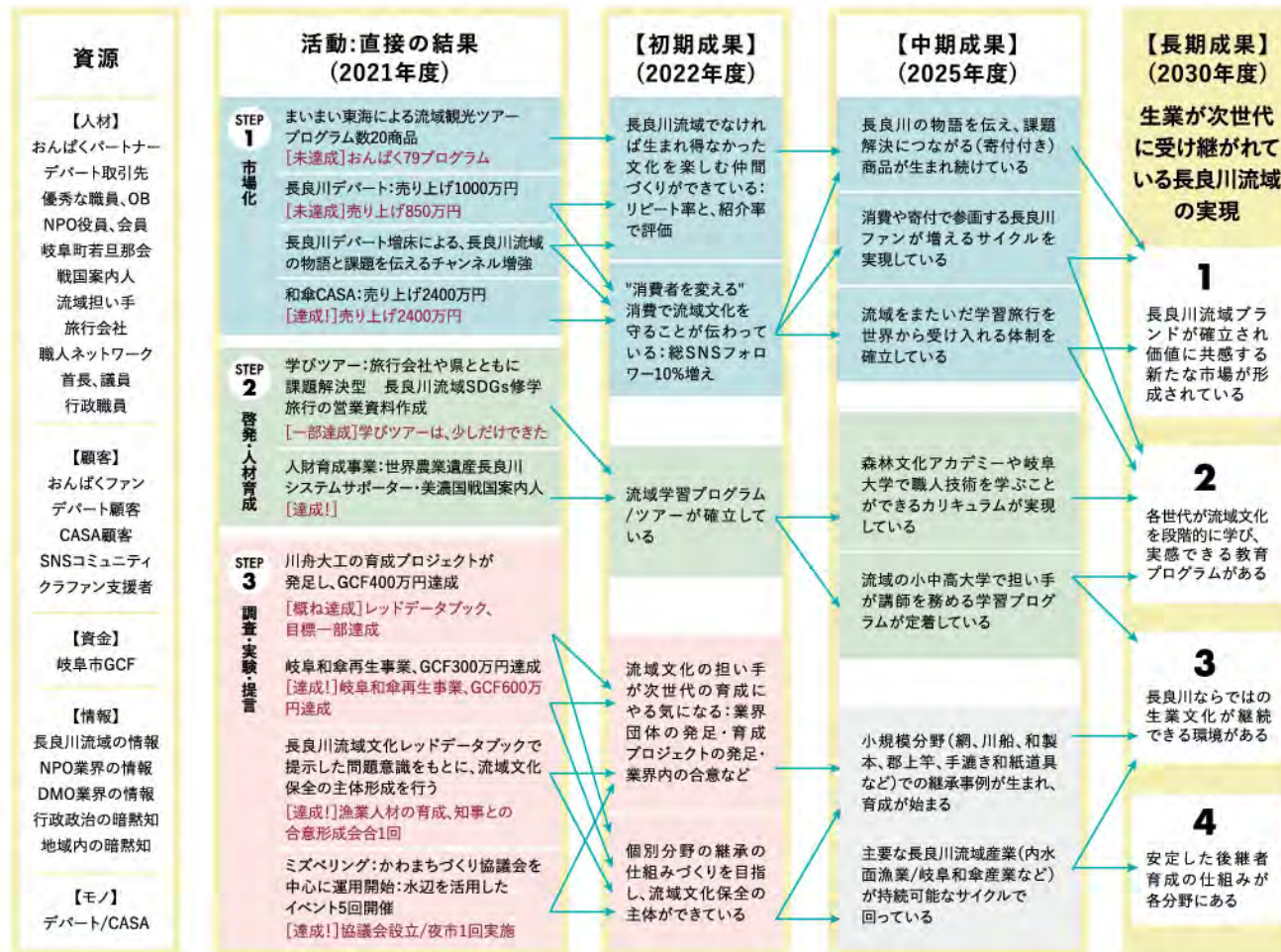


ORGANが2030年までに取り組む 「生業が次世代に受け継がれている長良川流域の実現」 に向けたロジックモデル

今回のコロナ禍は、社会の形を大きく変えています。地域づくりや観光の領域においても、根本的な変化の契機が訪れています。高度成長期以来続いてきた地域産業はコロナで構造改革を迫られるものの、意思決定の仕組みが硬直化して自らを変えることができないという局面にたくさん遭遇します。健全な経済循環があれば、単にプレイヤーの交代で済むかもしれませんが、地域の伝統産業の現場ではそうはいかず、意思決定のミス=文化の死滅につながりかねません。伝統工芸、漁業、観光など、どの業界にも、既存のビジネスとは異なる新たなアプローチが求められています。原料や資源調達、新しい顧

客、新しい流通、新しい支援者、新しい資金調達の仕組みなど、単なるビジネスではなく社会的事業としてのリデザインが求められています。

ORGANがこれまで行ってきた長良川流域の伝統産業支援の取り組みは、まさに、社会的事業としてのリデザインであり、今その支援の必要性が顕在化していると感じています。2021年NPO法人ORGANは、鶴飼と川まちづくり、船遊びと芸舞妓、川船大工、長良川温泉など、川のほとりで営々と続いてきた伝統的な営みに対し、それぞれの分野に適した支援の方法を描き、その持続可能性にコミットしていく所存です。



※赤字は2020年度の結果です
※GCFはガバメントクラウドファンディングの略です

市場化 CASE 1 和傘CASA

和傘CASA開業以前には岐阜県内に和傘の小売を専業で行う店舗はありませんでした。

一般の人が和傘に触れる機会は限られていましたが、長良川デパートの一商品として販売し、和傘の魅力を再認識。一般消費者向けのチャンネルを作り、市場を形成するとともに、岐阜和傘業界としても新たな需要の創出となる、との思いから和傘CASAの開業に至りました。開業から約2年半で、岐阜和傘の認知度も高まり、需要が生まれていることで和傘業界にも新しい風が吹いていると感じています。



STEP 1 市場化
和傘問屋・職人との関係構築
岐阜和傘協会の設立や後継者育成などの伴走支援を実施。

STEP 2 顧客の声を集める
購入者に直接触れ、声に耳を傾け、ニーズなどをお聞きしています。

STEP 3 職人へのフィードバック
売り場で得た情報を、共有させていただきます。

STEP 4 製品への反映
ときには和傘CASAからの要望で製品を作成していただきます。

事業責任者の声／今後の方向性

唯一の岐阜和傘専門店として職人さんとお客さまを繋ぐ役割を担っておりますが、職人さんたちには安心して和傘作りに専念できるように、この美しい匠の技を末永く継承していけるよう、多くの方に和傘の魅力をお伝えすることがまずはやるべきことと考えています。地道ではありますが、それが確実に未来に繋がること信じ、取り組んでいます。
(和傘CASA店長：河口)

その他

1 ぎふ灯り物語
岐阜公園周辺を会場として、和傘・提灯のイルミネーション展示が行われました。会場を訪れる人は日ごとに増え、多くの人々を魅了しました。

2 メディア掲載多数
2020年度はNHKや民放各社のテレビをはじめ、多くのメディアに取り上げていただく機会も増えました。主なメディア掲載は、NHK「最後の〇〇」「小さな旅」など。



育成 CASE 1

美濃国戦国案内人育成研修と 戦国ドラまちEXPOオンライン2020

これまでの観光ガイドと言えば、現地に足を運んでもらい、対面での案内が主流でした。ORGANでは、日本遺産「信長公のおもてなしの息づく戦国城下町岐阜」や大河ドラマ「麒麟がくる」での観光客誘客をめざし、有償観光ガイド「美濃国 戦国案内人」を育成し、多くの案内実績を残してきました。しかし新型コロナウイルス感染拡大の影響で

2020年からは対面での研修ができなくなりました。ご高齢の研修参加者も多く、オンラインの導入にも苦労しましたが、先行事例や専門家のご協力のもと実施することができました。研修の集大成となる「戦国ドラまちEXPO」は7プログラムすべてをオンラインで開催しました。



合意形成 オンラインプログラムの調査・検討

4月ごろからオンラインプログラムの実施を検討。手分けしていくつかのオンラインプログラムに参加しました。そのひとつが「まいまい京都」です。

社会実験 1 配信の環境整備

「まいまい京都」にメールで連絡をとり、機材について助言をいただいたり、オンライン向けの説明会に参加したりして情報を集めました。機材をそろえ、配信環境を整えました。

社会実験 2 配信テストとブラッシュアップ

長良川おんぱくのパートナー説明会をオンラインで実施しました。それをもとにオンライン未経験者向けに必要な資料を作りました。

成果 プログラムの企画・準備

映像制作の専門家にも助言をいただき、カメラの前で話すだけでなく、視聴者に内容が伝わるようにスライド画像や動画を使うナリオを考え、準備しました。

STEP 5 広報と決済方法の整備

参加費の決済とアンケートの回答もWEB上でできるように整備しました。

STEP 6 配信

参加者は全プログラムでのべ163名。北海道や大分県からの参加者もありました。

美濃国 戦国ドラまち EXPO

岐阜の歴史を旅する 美濃国 戦国案内人

動画は、YouTubeチャンネルで一般に公開していますので、ぜひご覧ください。

事業責任者の声/今後の方向性

新型コロナウイルス感染症拡大のため、今までとは違うオンラインでのプログラム提供という新しい試みができ、可能性が広がったように思いますが、現在の厳しい状況が改善され観光客が多く岐阜を訪れるようになることを願っています。また、今後は、小中高生らが地元の良さを再発見したいという需要が増えるのではないかと見込んでいます。オンラインを含め新たなツアー開発やツアー提供の機会を増やしていきたいと思っています。(美濃国戦国案内人育成研修担当:田口 誠)

その他

海外にオンラインお座敷遊びを配信

以前ORGANに勤務し現在はカナダ在住の寺町さんに協力いただき、岐阜市から国内とカナダの参加者に向けてお座敷遊びを配信しました。オンラインでのお座敷遊びはその後、商品化し、現在も好評いただいています。



提言 CASE 1

ぎふ長良川鵜飼 かわまちづくり計画

当法人の提言活動を通して、「ぎふ長良川鵜飼かわまちづくり」が策定、国に登録されました。国土交通省は、平成21年度から「かわまちづくり支援制度」を設け、全国の、地域と連携した川づくりに関する計画について、認定とその後の支援を行なっています。地域資源や地域ならではの川と付き合ってきた知恵を活かし、河川空間とまちが融合し、良好な空間を形成し、地域の賑わいを創出することを目指しています。長良橋上流の右岸(鵜飼屋地区)・左岸・川原町が対象エリアとなっており、昨年度の年次報告書でお伝えした長良川鵜飼棧敷もこの計画の根拠となる社会実験に位置づけられています。

NPO法人ORGANと国土交通省木曾川上流河川事務所で連携し、周辺の事業者と共に進めてきた「ミズベリング」の勉強会やイベントなどを通して段階的に合意が図られ、ORGANから岐阜市に対して協議会設立の提言を行いました。その結果、令和2年8月に「ぎふ長良川水辺空間活用協議会」が設立され、魅力的な水辺空間の創出に向け、地元の地域代表や観光事業者からなる協議会等で協議、令和3年1月に事業計画となる「ぎふ長良川鵜飼かわまちづくり計画」の登録申請を行い、令和3年3月19日、国土交通省のかわまちづくり支援制度に登録されました。

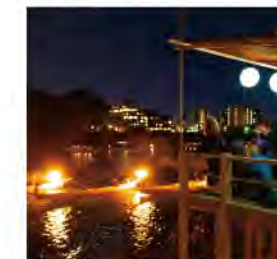


連携の取組



ミズベリング勉強会

社会実験 1



長良川鵜飼棧敷

社会実験 2



長良川夜市

成果



ぎふ長良川鵜飼かわまちづくり計画

事業責任者の声/今後の方向性

令和3年度になんとか国の登録に漕ぎ着けましたが、重要なのはこれからで、川辺の活用ルールを定めながら、実際に計画のように川辺を運用していくための体制構築が必要です。&nを運営する長良川リバースケープや長良川うかいミュージアムなども連携し、より実効的な運営ができるよう協議会の一員として関わっていきたく考えています。(蒲)

その他

岐阜市ガバメントクラウドファンディング

ふるさと納税の仕組みを活用したクラウドファンディングです。自治体を窓口公益性な事業を行うNPO法人などが寄付を募るもので、公益事業の資金調達手段として注目を浴びています。令和2年度に、合同会社めぐるの木村代表とともに岐阜市に対する提言活動を行い、政策として採用され、運用が開始しました。

2020年度 活動計算書

令和2年4月1日から令和3年3月31日まで

科目	金額	(単位:円)
I 経常収益		
1. 受取会費		
正会員受取会費	0	
入会金会費	0	0
2. 受取寄付金		
受取寄付金	651,500	
資産受贈益		
施設等受入評価益		651,500
3. 受取助成金等		
受取助成金		
受取補助金	10,371,945	10,371,945
4. 事業収益		
事業収益	98,688,396	98,688,396
5. その他収益		
受取利息・配当金	2,531	
受取賃借料	6,634,224	
為替差益		
雑収入	4,387,862	11,024,617
経常収益計		120,736,458
II 経常費用		
1. 事業費		
(1) 人件費		
役員報酬	6,033,000	
給料手当	14,845,200	
臨時雇賃金	3,118,438	
ボランティア評価費用		
法定福利費	3,034,333	
退職給付費用		
通勤費		
福利厚生費	5,136	
人件費計	27,036,107	
(2) その他経費		
売上原価	22,472,770	
業務委託費	27,786,648	
諸謝金	879,218	
印刷製本費	982,671	
会議費	495,338	
旅費交通費	1,555,982	
車両費		
通信運搬費	1,158,817	
消耗品費	3,233,603	
修繕費	863,611	
水道光熱費	177,077	
地代家賃	6,167,288	
賃借料	4,106,260	
施設等評価費用		
減価償却費	1,102,319	
保険料	314,726	
諸会費・負担金	12,340	
租税公課	24,850	
広告宣伝費	721,623	
研修費	298,297	
支払手数料	1,038,107	
交際費	16,268	
寄付金	150,000	
雑費		
その他経費計	73,557,813	
事業費計	100,593,920	

来年度から、認定NPO法人になることを目指すため、「長良川サポーター100人キャンペーン」を10月に行ったこともあり、寄付金が103,570円から651,500円に増えました。今期は1,000,000円を目指します。引き続き応援よろしくをお願いします！

皆さまからの寄付金が増えたこと、おんぱく関連収入の維持、CASAの売上が好調であり、経常収益は創業以来初めて1億円を突破しました。

昨年度より22,213,504円増加し、この費目も初めて1億円を超えました。事業規模が大きくなると、必然的に経費は増えてまいります。特に、CASAでの和傘の仕入が増えたため売上原価が増えたこと、おんぱくノウハウ移転事業による業務委託費が増えています。

科目	金額
2. 管理費	
(1) 人件費	
役員報酬	
給料手当	3,623,410
法定福利費	514,124
退職給付費用	2,400,000
通勤費	
福利厚生費	229,695
人件費計	6,767,229
(2) その他経費	
印刷費	
会議費	38,044
旅費交通費	4,147
車両費	
通信運搬費	256,025
消耗品・事務用品費	100,514
印刷製本費	21,750
修繕費	
水道光熱費	199,068
地代家賃	1,129,104
賃借料	
減価償却費	
保険料	900
外注費	
研修費	
諸会費・負担金	102,625
支払利息	380,054
租税公課	1,363,420
支払手数料	604,596
交際費	42,331
寄付金	145,880
雑費	34,919
その他経費計	4,423,377
管理費計	11,190,606
経常費用計	111,784,526
当期経常増減額	8,951,932
III 経常外収益	
1. 固定資産売却益	
2. 過年度損益修正益	
経常外収益計	0
IV 経常外費用	
1. 固定資産除売却損	
2. 災害損失	
3. 過年度損益修正損	
経常外費用計	0
V 経理区分振替額	
経理区分振替額	
税引前当期正味財産増減額	8,951,932
法人税、住民税及び事業税	924,300
当期正味財産増減額	8,027,632
前期繰越正味財産額	1,670,614
次期繰越正味財産額	9,698,246

この活動計算書は会計帳簿の記載金額と一致し、NPO法人ORGANの収支を正しく示していることを認めます。

担当理事 龍原潤一
監事 田代達生

ご寄付いただきました



SOMPOホールディングスの役員で構成されるボランティア組織「SOMPOちきゅう倶楽部」様より当法人のミッションに共感いただき、岐阜の文化・芸術への理解を深めるための多様な活動に対して10万円のご寄付を頂きました。ありがとうございます。



明治安田生命様が展開する「地元の元気プロジェクト」の一環として、従業員による「私の地元応援募金」から、当法人のミッションに共感いただき、岐阜・長良川流域の持続可能な未来を切り開く活動に対して10万円のご寄付を頂きました。ありがとうございます。

数字でみるORGAN



設立 **10**年



有給スタッフ数 **10**人 (3月末時点)



会員数 **61**人

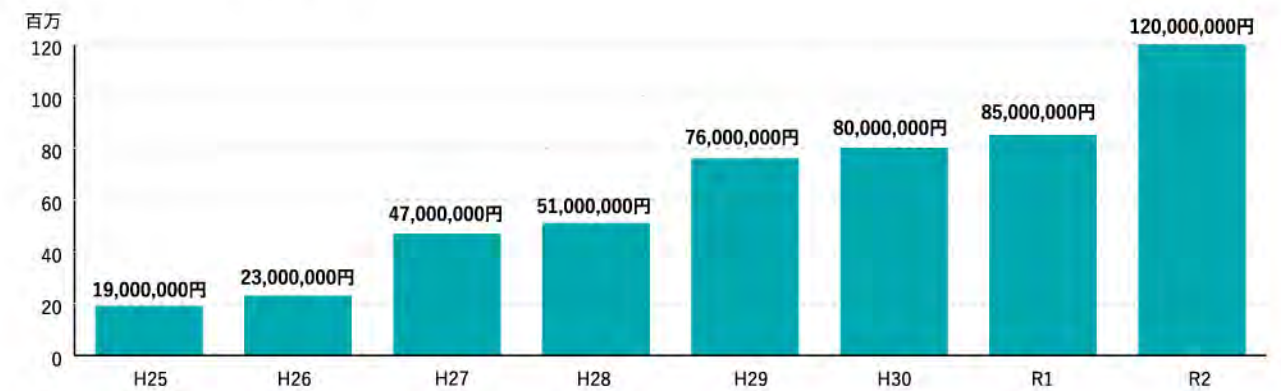


マンスリーサポーター会員数 **117**人



メディア掲載数 **39**回

ORGAN事業収益推移



NPO法人ORGAN 2021年度事業方針

コロナ後の社会を見据えた、付加価値を創出する投資の年

ライフスタイルの変化を余儀なくされた2020年。この状況は未だ終わりが見えません。しかし私たちのミッションはそれによって左右されるものではありません。目の前の状況に惑わされず、時には原点に立ち返りながら事業を進めていきたいと思っています。

2021年度大きな変化となるのが長良川おんぱくの土壌を引き継いだ「まいまい東海」の立ち上げです。京都を中心とした関西エリアで行われる「まいまい京都」と連携し、ORGAN自主事業として、ディープな体験やツアープログラムを運営します。地域資源のテストマーケティングと人材育成に重点を置いた地域活性化手法「オンパク手法」の10年を経て、地域の物語を高付加価値ツアーとして継続的に販売し続ける、着地型旅行事業へとシフトする時がやってきました。長良川から東海へと対象エリアを広げることに葛藤はありましたが、岐阜への観光客のデータから、その多くを

愛知県民が占めることや前後の立ち寄り地が広範に渡ることを踏まえ、長期的に岐阜への顧客形成に繋がると考え決意しました。

また、小売部門の長良川デパートは年度後半には売り場を増床いたします。これまで面積という制約で伝えきれなかった長良川の物語や商品がたくさんありました。長良川流域ならではのプロダクトとお客様を「つなぐ」役割を、これまで以上に担っていければと思っています。

また、長良川流域文化の担い手育成に資する取り組みも、研修や起業支援、資金調達支援などを総合的に組み合わせながら実施をしていきます。そして、より地域社会に求められる公益的な存在として認知されるため、2022年度の「認定NPO」化に向けても準備を進めていきます。本年度もどうぞよろしくお願いたします。



ORGANの活動に参加するには？

NPO法人ORGANでは、共感いただけるみなさんとの様々な関わり方をご用意しています。

ORGAN長良川サポーター (マンスリーサポート会員)

ORGANの活動全体を応援する月額寄付会員。webサイトを通じてリアルタイムに活動報告をお送りします。

マンスリーサポート会員 入会ご希望の方

合同会社めぐるの運営する社会課題解決支援サイト「凸と凹」内のプロジェクトからマンスリーサポーター会員に登録できます。



<https://deco-boco.jp/projects/view/13>



NPO法人
ORGAN

プロボノ

ORGANが定義する特定のミッションに対して一緒に取り組む人を募集します。今後のワークショップを踏まえ募集、活動の開始をします。

ORGAN正会員

総会の議決権を有する会員です。会費は年10,000円です。今後、事業展開を行う中で定期ミーティングの参加等によりORGANに関わることが出来ます。長良川流域に現場を持ちORGANとビジョンを合わせて活動する方を想定しています。

NPO法人ORGANを認定NPO法人にするため、事務局では現在このようなプロセスを進めています

なぜ認定NPO法人になりたいの？

- ◆ お金にならないことも含めて取り組み、地域課題に立ち向かうため
- ◆ 自主事業収入、事業委託収入、補助金助成金収入以外に「共感者からの寄付金収入」をちゃんと集められるNPOになりたいから
- ◆ 社会的役割に共感してくれる人を集め、しっかりと説明責任を果たしていくその責任感を持つために

PST※要件:実績判定期間内の各事業年度中の寄附金の額の総額が3,000円以上である寄附者の数が、年平均100人以上であること。
※パブリック・サポート・テスト(PST)とは、広く市民からの支援を受けているかどうかを判断するための基準であり、認定基準のポイントとなるものです。

認定NPOになるにはこの2年間PST要件を満たさないといけない

【令和2年度】

◆ PST(3000円×100人)クリア
みなさんのご協力で寄附者達成しました!

◆ 「特定非営利活動」収入が80%(定款の変更が必要)臨時総会で承認いただき定款の変更ができました!

【令和3年度】

◆ PST(3000円×100人)クリア
引き続きのご寄付をお願いします!

目指すところ
【令和4年度】
認定NPO法人に認定!

認定NPOになると

- ① 運営組織・事業活動が適正で公益の増進に資すると認められる
- ② 寄附者が税控除を受けられるようになり、寄付が集めやすくなる

NPO法人ORGANの活動をフォローしてください!

